【始める前に】

全ての項目に「初級文法のポイント」と「教え方のコツ」を記載しておりますので、

「授業の前には、これさえ見れば大丈夫！」という、手放せない一冊としてお使いいただけると思います。

文法知識を「知る」だけにとどまらず、初級文法を「頭の中に体系的に入れる！」ことを目的としています。

文法が体系的に頭に入っていれば（＝暗記していれば）、外国人の皆さんが必要とするタイミングで、必要な情報を、頭の引き出しから取りだして自由に教えることができます。

どうぞこのような見方で、14項目をお楽しみいただければと思います。

「メルマガ情報」「PDF資料」「映像解説」の3つの視点から、理解を深めて頂ければと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『第1章-1』

名前／職業／身分／国籍を言う (名詞-肯定文)

①私は本田／会社員／学生／日本人です。

「私」についての説明＝紹介をするということです。

自分をはじめて人に紹介するとき、どんなことを説明として述べればスムーズな自己紹介ができるか考えてみて下さいね！

学校の初日、友達が友達を紹介してくれた時など、学習者が実際に遭遇しそうな場面で登場人物なども設定すると、より現実味のある実践練習ができると思います。

パスポートや名刺など、いろいろなレアリア（現物）を用意して、日本語での指示をできるだけ少なくして練習ができるように工夫することがとても大切なレベルです！

（特に、直接法＝日本語で教える場合。間接法の場合は言葉で説明することが出来ますので、必ずしも直接法と同じではありません。）

＊「間接法」というのは、媒介後＝学習者の母語などを使って、外国語で日本語を教えることです。「直接法」というのは、ほぼ日本語だけで教えることです。）

アルバイト先、会社での挨拶、友達同士、学校でなど、どの場面で自己紹介をするかによって、小道具も語彙も変わってきます。

「N1はN2です」が、数学で言う「公式」のようなものになります。

言葉を論理的に教えることは数学にとても似ています。

日本語では、一つの文を作るために、動詞、名詞、形容詞などの語彙と、文法（「〜てもいいですか」で許可を表す、など）いろいろな要素や語順が関係してきれいな1文ができます。

どこに、何を組み込めば良いか、それは学習者の母国語と違う点もたくさんあります。

語順が違う、助詞がある・ない、など。

なので、この「公式」をしっかり押さえて、あとは公式の一部分を入れ替えながら応用練習をする、という流れになります。

1章（全14回）で使われる文型のほとんどは、1-1の文型、「N1はN2です」が基礎になっていますので、最初にこの文型をしっかりと身につけることは、その後の自己紹介の練習をとてもスムーズに導いてくれます。

「N1はN2です」のN1とN2の名詞を変えるだけで、

・名前

・職業

・身分

・国籍

・年齢

・電話番号

・趣味

など、いろいろなことが言えるようになります。そして実際、自己紹介の場面ではこのような情報を1度に伝えることができると、会話もはずみますよね。

A：「はじめまして。私は田中です。失礼ですがお名前は。」

B：「私はマイクです。どうぞ宜しくお願いします。」

A：「こちらこそ、どうぞ宜しくお願いします。あの、マイクさん、お国はどちらですか？」

B：「国はアメリカです。アメリカのシアトルです。」

A：「シアトルですか。」

（＊少し難しいかもしれませんが、「シアトルはスターバックスが有名ですよね。」などの一言を入れると、会話の雰囲気がとてもよくなりますね！」

こうやって、自己紹介は会話のキャッチボールをすることがとても大切です。

このように実際にできるだけ近い会話の流れで練習すると、「生きた日本語」が身につく手助けになります。

（特に日本に滞在中の外国人に教える場合、日常生活で様々な日本語に触れるため、文法積み上げの知識だけでは対応出来ないことが多いです。）

自分を紹介することももちろんですが、相手を知ることも同じくらい大切です。ということは、会話のキャッチボールが上手にできると、相手にも好感を持ってもらえるし、情報もたくさん聞き出せるし、ぐっと距離が縮まります。

初対面の人と話すということ、それが外国人であるということ、日本語でチャレンジするということ、この全ての緊張感を乗り越えて会話をするはずです。

できるだけその後の人間関係が楽しく展開できるように、日本語の面からきちんとサポートしたいですね！

また、自己紹介で相手にいい印象を持ってもらえるように、「笑顔」「おじぎ」など、雰囲気作りも気をつけて下さいね。

学習者が学生なのか、会社員なのか、主婦なのかなど、学習者の立場によって遭遇する場面が変わってきます。

ですので、できるだけ遭遇する場面に近い形で教え、そのまま実際の場面でスムーズに言葉がでるように「場面設定をできるだけリアルに」設定＋練習することが、現場で使える日本語を学ぶことに繋がります。

日本人との円滑なコミュニケーションに一番大切な「日本語」という道具を、使いやすい方法で是非教えて下さいね！

「日本語」は、外国人の皆さんと日本人の縁結びのための大切な道具です。

「日本語教師」は、その縁を結ぶサポートをする存在です。

そんな、人の出会いに繋がる大切な、そして責任ある仕事を、どうぞこれから日本語教師であるみなさん自身が思いっきり楽しんで下さい！

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-2』

間違った情報を否定する (名詞-否定文)

①私は日本人じゃありません。

ここでは主に昨日の「1-1」の情報を否定する文型として練習します。

ここで否定の概念ですが、「否定」とは、「肯定」を否定するものです。というのが前提です。当たり前かも知れませんが。

ですから、一人が肯定として思っていること、

「石井さんは日本人ですよね。」という情報が違っているので

「いいえ、日本人ではありません」となりますよね。

ここでの練習も、形は1-1の否定版ですが、概念は「肯定の情報」を「否定する」ですから、そこをしっかり意識して場面作りを行って下さいね！

「ミラーさんはフランス人ではありません」（国籍）

という例文も、よくよく場面を考えてみると

A：「（クラスでフランス語を話しているミラーさんを見て）先生、ミラーさんはフランス人ですか？」

B：「ミラーさんですか？あ、いえ、ミラーさんはフランス人では（じゃ）ありませんよ。イタリア人ですよ。」

A：「あ、そうですか。イタリア人ですか。」

　　　（＊可能なら、「フランス語が上手ですね。」など）

B：「ええ。ほんと、上手ですね。」

というような会話が想像できませんか？

もちろん、学習者のレベル次第で、ここまで教えることは難しいかもしれませんが、話せなくても聞き取れるようにしておいたほうがいい表現もあります。

そして、教える、教えないは別として、こうやってまずは自然な会話の流れを想像することで、接続詞や相づちを打つときの一言などを教師自身が思い出すことができます。

こういう表現が「自然な日本語」に必要で有り、「使える日本語」になります。

多くの学習者の日本語学習の目的は「使える日本語」です。

進学目的であっても、試験対策であっても、「使える日本語」は全ての学習者の目的です！

基本文型をしっかりおさえながら、それをできるだけ実際にある場面のイメージを通して教えることによって、覚えやすく、忘れにくい場面練習へと繋がります。（あくまでも「基本」→「応用」という流れは必要ですが！）

こうすることによって、学習者の

「学校で習う日本語と、実際の場面での日本語が違うから分からない！」

という切実な悩みを解消する手助けになります。

あと、日本人って、直接的に否定すること、避けませんか？

例えば

「竹田さんは　会社員ですか。」

「いえ、会社員じゃありません。銀行員です。」

よりも

「いえ、（違います）。銀行員です。」

を使っているような・・・。

情報を否定しているという意味では

「じゃありません」も

「違います」　　　も　同じですが、

「ありません」という否定の形を取らないので、なんとなく否定されている感じが弱い気がしませんか？

微妙なニュアンスですが、日本語って、日本人って、この「微妙な・・・」を大切にしている文化ですよね。

相手の発言をやんわりと正す、という気遣いですよね。

学習者の国の文化や言語と大きく違う部分は教えやすいですが、こういう「ちょっとしたニュアンス」は、感じにくいし、教えにくいですよね。

でも、私は、こういう部分に本当の日本人の心が宿っているような気がします。

どうぞ皆さんも、日本語にちりばめられた日本人の感覚を伝えられる、教えられる日本語教師を是非目指して下さいね！

あ、最後に

「です」→「では（じゃ）ありません」は、学習者にとっては結構長くて言いにくい表現です。

長くて言いにくい時は後ろから切って、リピートさせながら言わせます。

（T：教師　　S：生徒）

T：「ありません」

S：「ありません」

T：「ではありません」

S：「ではありません」

という風に、後ろから前に繋げていきます。

数回練習すると、かなりスムーズに言えるようになります。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-3』

正しいかどうか聞く (名詞-真偽疑問文)

①「あの人(方)は本田さんですか」

　「はい、本田さんです。　／　いいえ、本田さんじゃ(では)ありません」)

自分の情報が正しいかどうか聞いています。

「はい」「いいえ」「〜ですか」が新項目です。

ここで1つ豆知識ですが、新しい文法（文型）を教える時は、

①肯定文

②否定文

③真偽疑問文（はい・いいえ）

④疑問詞疑問文（「どこ」など）

の順に教えます。

この『第1章』もそうですね。

①私は本田です。

②私は本田ではありません。

③彼は本田さんですか。

④彼はどなたですか。

となります。

①→②の順番は分かると思いますが、③→④の順番の理由として、「はい」「いいえ」で答えられる方が答える方が簡単だからです。

④の疑問詞を使う方は答えの範囲が広いですね！ですから③→④の順番になります。

私は以前、オーストラリアに行ったときに「ベジマイト」というちょっとにおいがきついジャム（？）があるのですが、においから想像して、

「これ、調味料ですか？」って聞いたら、

「いえ、ジャムです」と言われ、

「え〜！！！！！」と、本当にびっくりマークが5つつくくらい驚いたのを覚えています。

見かけ、においなど、何かが自分が想像しているものに「似ている」んですよね！

だから、「これは○○ですか」と聞きたくなって確認しますね。

次の答えは

「はい、そうです。調味料です。」

「いいえ、実はジャムです。」と続きますね。

こんな「びっくり！」の反応がくるような練習だったら、学習者もインパクトに残って忘れにくいかもしれませんね^^

第1章の「紹介する」に当てはめるとすると、

「彼はイギリス人ですか。」

「いいえ、彼はドイツ人です。」

というような練習をしますが、実際の場面を想像するとどうですか？

例えば、イギリスの国旗のTシャツを着ていたので「イギリス人かな？」と思っている場面、などが想像できませんか？

言葉や文章に「場面」を与えることで頭の中で実際の「場面」がイメージでき、そのイメージできた場面の中に自分や登場人物を描き、そこに感情が生まれるような出来事が起こり、その感情や思ったことを「言葉に出す＝日本語で言う」、ここの部分が「日本語を教えること」です。

この場面の流れを日本語で説明するにはまだ難しいレベルの学習者に、どうやってこんな場面設定を行うのか、そこが教師それぞれのアイデア・発想ですね！

上の説明の中で、「感情が生まれるような出来事があり、その感情や思ったことを」までは、「イメージ」として頭の中に描くことはできます。

例えば、ある交流会に行き、いろいろな人がいます。

その中で一人の外国人がいました。

その外国人はイギリスの国旗のTシャツを着ています。

その人を見て、「イギリス人かな？」って想像します。そして、友達に

「彼はイギリス人ですか。」

と尋ねます。こうやって「彼はイギリス人ですか。」と言いたくなるような場面設定とストーリーを作ります。

このように頭の中に想像する言葉を母国語で言えないだけで、その場面からイメージする感情はほぼ同じ、という流れを作ります。これが「場面設定」です。

頭の中のイメージが教師の思惑（？！）と同じになるように誘導する、ここってアイデアであったり、演技力であったり、場面設定力とでも言った方がいいかもしれませんが、日本語を教えるというのは最後の

「彼はイギリス人ですか。」

という部分だけであり、そこまでのイメージ作りがと〜っても、と〜っても大切なんです！教師の頭の中にあるイメージと同じイメージを教師の誘導によって学習者の頭の中に順番に植え付けていきます。

結局導入は「イメージ合わせ」ということですね。

言葉をできるだけ使わない、もしくは既習語彙だけでイメージを作る。言葉で補えない部分を「絵」や「道具」で補う。そして同じイメージを作る、ということです。

そして最後によくある間違いですが、

「いいえ、じゃありません」なんて間違いが実はよくあるんです。

本当は「いいえ、会社員ではありません」となるところを「会社員」を省いて言って

しまう理由は・・・。

その前の問いで、

「会社員ですか」と聞かれたら、「会社員」という情報が既に出ているので省いても理解できる、と思ってしまうのかもしれませんね。

日本語では、同じ情報が重複しても必ず「いいえ、会社員ではありません」

って言いますね。日本人にとってはもちろん当たり前ですが、結構多い間違いですのでご注意下さいね。

『1章-4』

同じ情報を言う (も)

①私は学生です。彼も学生です。です。

海外に行って、

A：「私は日本人です。」

B：「え！私も！」なんて

場面を想像して下さい。

共通の情報って、それだけで親近感が沸きますよね！

そんなリアクションや、表情、なども必然的についてくるコミュニケーションの手段の一つですよね。

きっと「私も」の時って、「笑顔」ですよね！「わ！嬉しい偶然！」って。

そして、きっとBさんは「あ、そうですか！」って、嬉しそうに返事をしていると思いませんか？

「同じ情報＝共感＝親近感」

ですので、初対面では特にお互いの距離を縮めるのにすっごくいいきっかけになりますよね！

日本語を教えると言うことは、「日本語でコミュニケーションができるようになる」ことが目的ですので、この日本語を教えたら何ができるようになるのか、ということを常に意識しながらその日の新項目を場面と共に教えるということを意識しましょう。

そして、「も」の解説ですが、

「私は日本人です。」

「彼も日本人です。」

と、「は／も」の後ろの情報が同じ「日本人」です。主題の「私」→「彼」に変わって、後ろの情報が同じ場合は「は」→「も」になります。

ここではこの場合の「も」しか扱っていませんが主題部分が同じで、後ろの情報も同じ場合も「も」を使います。

「これはペンです。」

「これもペンです。」という風にですね。

そして会話ですが、

A：「私も日本人です」

B：「え、日本のどちらですか？！」

A：「福岡です」「Bさんは？」

B：「私は大阪です」

くらいまで言えたら、より、共感を共有できますので、未習・既習関係ない環境で教えられる場合はいかがでしょうか。

『1章-3』までは助詞は「は」しか出てきませんでしたが、ここで初めて「も」が出てきます。

ここまで「は」の定着を図ってきたものを「も」に代えるので、「私はも」と、「は」をつけたまま「も」をくっつけてしまう間違いがよくあります。

「は」の代わりに「も」がくる、ということを定着させるのに、学習者によっては時間が必要になるかもしれません。

心の距離が縮まるって、外国に住んでたら特に嬉しいことではないでしょうか？

今日本に住んでいなくても、いつか日本にいったら有名な場所に行ってみたい、美味しい物を食べたいなど、いろいろな体験も楽しみでしょうが、私が今まで聞いた外国人の方の一番欲しいものは、「日本人の友達」でした。

友達を作るためには、「コミュニケーション」が必須です。

「コミュニケーション」のためには言葉が必須です。

自分の気持ちを日本語できちんと伝えられ、また、相手の話す日本語も聞き取れる、単純にこういうことですよね。

そしてその入口である「自己紹介」は、ほぼ100%といってもいいほど必要なコミュニケーション＝この場合は「友達作り」の始まりです。

こういう理由も有り、私はこの「自己紹介でよく使われる14項目の〜」を無料配信しています。

この14項目を、自己紹介を教えられる日本語教師、もしくは日本人が増えれば、彼らが一番欲しいと思っている「友達作り」の手助けになる、そう思っています。

以上です。

心の距離を縮める自己紹介で友達をたくさん作ってもらえますように！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-5』

初対面でよく聞く疑問詞疑問文のまとめ(何/どこ/誰)

①名前、国籍、職業、会社名、学校名などを尋ねる。です。

【名前】

・お名前は「何」ですか。

（疑問詞：何）

【国籍】

・「どこ」の国ですか。

・お国は「どちら」ですか

（疑問詞：どこ／どちら）

【職業】

・お仕事は「何」ですか。

・ご職業は「何」ですか。

（疑問詞：何）

【会社名】

・「どちら」の会社ですか。

・会社は「どちら」ですか。

（疑問詞：どちら）

【学校名】

・学校は「どちら」ですか。

・「どちら」の学校ですか。

（疑問詞：どちら）

疑問文がきちんと作れること、疑問詞をきちんと理解することはとても大切です。

普段、授業をしている場面、もしくは日本人と外国人が話している場面を想像して下さい。

日本人が話しかけて、外国人が答えるという場面が多いと思いませんか。

授業中でも、教師からの質問に答えることが多いですよね。

ですので、

「じゃあ、今度は○○さんが質問して下さい。私が答えますから。」というと、結構疑問文を考えるのに時間がかかったり、上手に言えないことが多いです。

そういう経験を踏まえて、この『1章-5』の「疑問詞のまとめ」を項目として入れました。

これは、疑問文が苦手、ということだけではなく、「受け身」のコミュニケーションになってしまうということにも繋がります。

是非、自分から話しかける＝質問を相手に投げかける練習を多く取り入れてください。

母国語では積極的にコミュニケーションが取れる人でも、日本語での話しかけ方に自信がなく、

「私、自分の国ではよく話す方なんですけど、日本語はまだ思ったことを話せないからジレンマがあって・・・。」と言われこと、何度もあります。

自分から話しかけるって勇気がいりますよね？！しかも外国語で！

話しかけても答えを聞き取れなかったらどうしよう・・・って不安もありますよね。

ですので、自分から話しかける負担を軽くするためにも、上手に質問するってとっても大切です。

疑問文をしっかり使えること、疑問詞をきちんと覚えることは、積極性なコミュニケーションにとっても大きい一役を買ってくれます。

前回もお伝えしましたが（映像は今回）、疑問文は「はい／いいえ」で答える真偽疑問文（疑問詞を使わず、「明日は学校に行きますか。」と、最後に「か」をつけて疑問文にするもの）と、「いつ」「どこ」「なに」のように、疑問詞をつけて疑問文を作る疑問詞疑問文という疑問文の作り方、この2種類があります。

答えは・・・・分かりますね！

1.真偽疑問文

2.疑問詞疑問文、の順です。

理由は

「明日、学校にいきますか。」の答えは

「はい、行きます。／いいえ、行きません。」となります。

「明日、どこにいきますか。」の答えは

「学校／会社／東京／美術館・・・・・・」

どこまでも答えの選択肢がありますよね。

ですので、まずは答えの選択肢の少ない「真偽疑問文」で、次に「疑問詞疑問文」で、自由に答えを選んで言える練習をします、ということでしたよね！

そして「何」の読み方についてですが、訓読みとしては「ナニ」「ナン」の2通りがあります。「ナン」という読み方は

「特別なものか、または用法のごく狭いもの」で使われます。

まず「ナニ」と読む場合は、「どんな（もの）」（＝what kind of、 which）という意味で用いられるのが一般的です（「質」にかかわる、と言えます）。

例）何色（ナニイロ）、何部（ナニブ）、何県（ナニケン）など

また、「ナン」と読むことばには、「いくつ」（＝how many）という意味のものが多いです（「数」にかかわる、と言えます）。

例）何色（ナンショク）、何部（ナンブ）、何県（ナンケン）など

ですから、たとえば「そのボールペンは何色ですか」という問いも、「ナニイロ」と読めば「赤／黒／…」という答えになりますし、「ナンショク」であれば「3色／4色／…」ということになります。」

＊参考：『NHK新用字用語辞典　第3版』（p.612の「何」の項）参照

つまり、「どんな〜」という意味を尋ねる時は基本的に「なに○○」、数字を尋ねるときは「なん○○」で使われることが多いようです。

例えば「何色」は、色の名前を聞かれるときは「なにいろ」、色の数を聞いているときは「なんしょく」となります。まさに、この規則ですね！

では今日は「疑問詞」を意識しながら過ごしてみて下さいね！

どんな時にどんな疑問詞が使われているのか、自然な日本語の使い方はいつも日常生活に答えがありますよ！

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-6』

所属先の身分を言う(所属の「の」)

①私ははぁと international の社員です。です。

公式は「N1はN2のN3です」です。

【N1】：私、彼、彼女、○○さん、あの方、その人・・・

【N2】：会社名、学校名、組織名

【N3】：身分　が入ります。

「私は田中です。」

「私は日本人です。」

のように、「は」という助詞を一番最初に習うことが多いですが、その次「の」を習うことが多いです。

母国語に助詞がないという国もありますので、助詞が定着しない学習者はとても多いようです。

あと、中国では、「的」という漢字が日本語の「の」に当たるようで（私も聞いた話ですので確実かどうかは定かではありませんが）、必要がないところに「の」を入れてしまうことが非常に多いです。

学習者の言語的背景が分かると、間違いを理解することができるので、できれば少しずつでも知っておきたいですね。

これからどんどん助詞が出てきますので、混乱することも多くなります。

上級の学習者でさえ、未だに初級レベルの助詞を間違えるんです・・・。という教師の話もよく聞きますので、助詞の理解・定着はとても時間がかかると思っていて下さいね。

助詞は、その1文字に、ぎゅ〜っと意味が濃縮されているので、まずはその1文字に潜んでいる本来の概念を紐解くことから始めなければいけません。

ちなみに「は」は、「は」の前に来るのがテーマ、後ろに来るのがそのテーマについての説明でしたね。

「テーマ」＋「は」＋「説明」の関係です。

例）私は田中です。

　　私は学生です。など。

だから「は」は何ですか？

「私について言うと、田中です。」と、今から「は」の前のこと＝テーマについて説明しますよ、という説明の入口が「は」です。

そして、「は」の後ろで、そのテーマの説明をする、という関係でしたよね。

この1章-6で学ぶ「の」は、

「所属先」＋「の」＋「身分」です。

例）私ははぁとinternationalの社員です。

　　私は○○学校の教師です。など。

だから「の」は何ですか？

そんな時、私は、日本語教師の方に（トレーニングの時に）その助詞をまず手で隠して考えてもらいます。

「私は学生です」

じゃあ、「は」を他の言葉で言い換えると・・・？

「私についていうと、学生です」かな？

とだいたい出てきます。

「は」＝「〜についていうと」となりますよね。だから「説明」の「は」なんだ！という概念が繋がります。

じゃあ「○○会社の社員です」は・・・？

「○○で社員として働いています」かな？

と、これもだいたい出てきます。

「の」＝「〜として働いています」となりますね。つまり「所属」のことですが、所属というのがどういうことか、という概念まで教師がつかむと、教える時の例文や誘導の仕方が変わってきます。

「○○学校の生徒です」だと

「さくら学校で学生として勉強しています」となりますよね。

「の」＝「〜として勉強している」となりますね。

要は「〜として」が鍵みたいですね！

というように、「は」は「〜について」を表し、「の」は「〜として〜」という概念が含まれているんだ！ということに教師自身が気付きます。

ここまで分析すると教える例文や、「何を教えればいいのか」という核心がつかめます。

助詞に慣れている日本人ですが、一文字、二文字にどんな概念が含まれているのかは学習者にとってみれば非常に分かりにくいものです。

よく新米日本語教師の方にあるのが

（S：生徒　T：教師）

S：「先生、「は」は何ですか。」

T：「「田中さんは」の「は」ですか。」

S：「はい、そうです。」

T：「これは、「田中さん「は」日本人です。ということです。」

（＊「は」の部分を強調で教えようとします。「は」を説明する、理解させる、ではなく、「は」の部分を大きな声で言って、迫力？！で分からせようとする教師を何人も見てきました^^;。　そして私の数年前まではそんな日本語教師の1人でした^^;）

そして、この『1章-6』についてですが、

会社だと、「〜として」の部分は

「○○会社の・・・①部長　②課長　③社員・・・・・」など、いろんな立場が来ますね。

（部長として働いています／課長として働いています、ということなので、「Nとして」のNの部分にどんな言葉を持ってきて練習すればいいかが分かると思います。）

学校だと、「〜として」の部分は

「○○学校の・・・①教師　②学生　③校長・・・・」など。

（○○学校で、教師として働いています／学生として勉強しています、など）

アルバイト先だと

「○○屋の・・・①アルバイトです　②店長です　③副店長です」などでしょうか。

（○○屋で、アルバイトとして働いています／店長として働いています、など）

いろんな「所属先」＋「立場」の組み合わせで、語彙も一緒にたくさん増やして下さいね。語彙の習得は根気が要ることですので、同じカテゴリーにまとめて、たくさんの語彙を整理して教えると、非常に語彙の習得の助けになります。

あと、資料にもありますが、「N1のN2」を「N2のN1」と逆してしまうことも多いです。

「○○会社のエンジニア」→「エンジニアの○○会社」というふうにです。

「の」の前後が名詞なので、逆にしてしまうのも理解できますが、日本語では修飾する言葉は前に来ますので、軸となる意味の名詞（この場合、「エンジニア」の方）は、後ろに来ることを意識付けすることが必要です。

例えば、「○○会社のエンジニア」の「○○会社」の部分を手で隠し、

「私はエンジニアです。」

だけ見せます。

「これはOKですか。」と聞くと

「はい、OKです。」

と言います。

次に「エンジニア」の方を手で隠し、

「私は○○会社です。」だけ残して

これはOKですか。」と聞くと

「いいえ、OKじゃありません。」

と答えます。

これはつまり、他の情報を隠しても残った名詞で意味が通じるものは「軸」となる言葉。重要度が1番！ということです。

そして、日本語は重要度の高い言葉は後ろにくるという性質がありますので、この「エンジニア」も後ろに来る、という意識を持たせます。

言葉で説明すると分かりにくいですか^^;

ただ、このように教えると、ほぼ全ての学習者が

「あ〜！」

と納得する顔をします。

そして、次回からほぼ間違えないのです。

それは、だいたいの学習者はその後「の」の文を作るとき、自分でどちらが後ろか前かを判断することができる「判断の仕方」を一緒に教えているからだと思います。

今日は助詞について少し触れました。

助詞って、深いですが、面白いですね！

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-7』

「年齢をいう」

『N1はN2（歳）です』です。

公式は「N1はN2です」、1章-1の公式と同じです。

【N1】：私、彼、彼女、○○さん・・・ 。

【N2】：数字（年齢が言えるくらいまでの数字）

違いは、「N2」が数字であること、「歳」が付くことなどですね。

公式が同じだと、あとは数字の読み方を覚えるだけなので、「簡単かも？！」という

感覚になると思います！

そして、この「数字」ですが、後々出てきますが、後ろにつく助数詞「枚／個／台など」によって、数字は読み方が変わってきます。

例えば「1」を例にとると

1枚・・・いちまい

1杯・・・いっぱい

1人・・・ひとり

など。

数字＋助数詞は、学習者が覚えるのに非常に苦労する項目です。

そして、助数詞リスト（枚／台など、様々な助数詞が一覧になっているリスト）など見せると、「え〜！こんなにあるの〜！」と、辟易している顔をします。

確かに・・・ですよね。

ですので、「よく使う順」に少しずつ教えます。

私だったら「一つ・二つ・三つ・・・」は絶対教えますね！

小さい物を数えるとき、レストランで注文するときなど、日頃よく使えるからですね。

以上のように、「数字」を教える時は、必ず助数詞を付けた状態で一つ一つ発音を確認することが必要です。

ちなみに豆知識ですが、日本語には助数詞が、約500種類くらい存在すると言われているそうです。凄いですね！

そして発音の仕方ですが、一般に音読みの助数詞の前の数字は「いち」、「に」、「さん」と読まれるそうです。

ということは、訓読みの前では「ひと」つ、「ふた」つ、「み」っつ、などの様に読まれるということですよね！

この法則が100%なのかどうかは私もまだ未検証ですが、興味深いです！

また、年齢について話す時、最近は、普通に年齢をいうのに加えて、「アラサー」や「アラフォー」などの言い方もよく使われますね。

こういう言葉って、すぐに覚えて（覚えたがって^^;）、忘れないんですよね！

「おもしろそう！」って思った言葉に対しては敏感に反応するようです＾＾

ちなみに、皆さんは、こういう「今どき日本語」は、

教える派ですか？

教えない派ですか？

様々な基準で、日本語教師によって教える・教えない、は違います。

ちなみに私はこんな時、教える方です。

それは、実際に学習者が日本人と会話しているときのことを想像したら

「何歳ですか。」

「私、アラサーなんです。」

って外国人からこんな答えが来たら

「わぁ、よく知ってるね！すごい！」

って、いい意味で面白がってもらえると思いませんか？

こんな話の展開も予想して、私達日本語教師は「実際に使える日本語」を教える基準を作っていった方がいいんじゃないのかな・・・とは個人的に思っています。

こういう友達ができるきっかけをコミュニケーションを通して得て、日本での生活がまた更に充実したものになる・・・。

その縁の下の力持ちが「日本語教師」ですよね。

あと年齢が同じ、もしくは世代が同じって、それだけで話が広がる共通点、たくさんありませんか？！

「私は38歳です」に対して、

「わぁ、見えないですね〜」

「お若いですね」

「近いですね！」などなど。

自然な「年齢」→「反応」の流れですよね。

こんな反応も自然ですが、なかなか教えてもらえないですよね、初級のこのレベルでは。

海外で日本語を勉強している方は、レッスン以外の日本語はあまり耳にしないかもしれませんが、日本で日本語を勉強している学習者は、常にランダムに日本語を耳にしますので、「日本語」＝「コミュニケーション」＝「人間関係」を意識して、人間関係がプラスに働きそうな日本語は、是非教えて下さいね！

年齢は、人間が生きてきた年輪！年齢をいうことにためらわない、堂々と年齢を自慢し合える世の中になったらいいのにな〜と思ってます。

そして、そして、年齢を聞くときは

「失礼ですが・・・」の前置き、とっても大切ですよね。

デリケートな質問ですが、でも、年齢から広がる楽しい話題も多く生まれているのも事実。

年齢を聞いた後の一言のコメント、皆さんなら、何を教えますか？！

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-8』

誕生日を言う

①誕生日は 5 月 12 日です。です。

公式は「N1はN2です」です。

【N1】：誕生日／私の誕生日／母の誕生日・・・

【N2】：日付け

まず、昨日までの公式と照らし合わせてみると、この項目も

「N1はN2です」となります。

昨日もお伝えしましたが、「数字」を入れるときは注意が必要です。

助数詞によって読み方が変わるから・・・でしたよね！

ここだと、まず、「○月」と「○日」に分けて練習します。

同じ「1」が付く場合でも

「1月」・・・いちがつ

「1日」・・・ついたち

と、ま〜ったく読み方が違いますよね！

で、これは、「○月」のほうが読み方がシンプルなので、まず「○月」を先に練習します。

1月〜12月までを、特に「4月」「7月」「9月」に気をつけながら確認します。

あとは「○日」。

これ、全然読み方が違いますよね！

「1日」・・・ついたち

「2日」・・・ふつか

「3日」・・・みっか

って・・・。

違いすぎる！！！ですよね！

だからもちろん学習者の皆さんにとっても難しい・・・っと、なります。

ですので、授業のたびに「○○さん、今日は何月何日ですか。」など、少しずつ慣れてもらえるように日付のことをよく話題にするといいと思います。

私はこうやって、覚えにくいものなどは、毎回授業で触れて、忘れにくいように繰り返しています。

「○月」同様、「○日」も発音に注意しなければいけないものがあります。

ちなみに・・・

1日（ついたち）

2日（ふつか）

3日（みっか）

4日（よっか）

5日（いつか）

6日（むいか）

7日（なのか）

8日（ようか）

9日（ここのか）

10日（とおか）

11日（じゅういちにち）

12日（じゅうににち）

13日（じゅうさんにち）

14日（じゅうよっか）

15日（じゅうごにち）

16日（じゅうろくにち）

17日（じゅうしちにち）

18日（じゅうはちにち）

19日（じゅうくにち）

20日（はつか）

21日（にじゅういちにち）

22日（にじゅうににち）

23日（にじゅうさんにち）

24日（にじゅうよっか）

25日（にじゅうごにち）

26日（にじゅうろくにち）

27日（にじゅうしちにち）

28日（にじゅうはちにち）

29日（にじゅうくにち）

30日（さんじゅうにち）

31日（さんじゅういちにち）

日本人同士でも

「あれ？14日って、「じゅうよっか」だったっけ？「じゅうよんにち」だったっけ？」となることがありました^^;

意外と改めて聞かれると分からなく日本語ってありませんか？！

ということがあるので、念のために上記の通り豆知識の共有です^^

そして、この「誕生日を言う」ですが、昨日の「年齢」のあとは、誕生日の話題に繋がることが多いですよね。

A：「失礼ですが、何歳ですか。」

B：「今は28歳ですが、もうすぐ29歳です。」

A：「あ、そうですか。お誕生日はいつですか。」

B：「誕生日は5月23日です。」

A：「あ、来月なんですね。」

B：「はい。アラサーですね^^」

という会話、想像できませんか？

もしくは

「先週、29歳になったばかりです。」

「あ、そうですか。おめでとうございます。」

などもありますよね。

これらは、年齢について話す時のよくある会話の流れです。

これを間接法（学習者の母国語など、日本語以外の言語を使って教えること）だと、こちら側に文法知識さえあれば教えられませんか？

①もうすぐ

②〜になります

③〜なんです

④〜たばかり

など、文法的には初級の半ば・後半でよく扱われるものですが、間接法だと媒介語で説明ができるので、自然な会話の流れに沿って教えることが直説法よりは簡単です。間接法で教えている方は特にチャレンジして見て下さい。

これが直接法（日本語で教えること）になると、もちろん日本語での誘導に制限が出てきますが、これも、こちら側に初級文法＝日常会話文法の知識が一通り入っていると、誘導次第ではかなり教えることが出来ます。

それぞれの語彙は宿題として翻訳してきてもらったり、「〜になります」なども、この初級文法なるほどトレーニングの資料と映像解説を見ていただければ、「絵」で説明することもできます。

「応用」を考えるとルールを教えた方がいいと思いますが、この「年齢を言う・誕生日を言う」という会話ができるようになる、というのが目的であれば、応用できなくても、この場面（だけ）で、この会話の流れを理解したり、言えるようになるというけことを目指してもいいと思います。

あと、私が誕生日を言うとき（書くとき）って、ポイントカードを作る時とか、書類を書くときとかでしょうか。

いろんなお店のポイントカードを集めて、授業で体験してもらってもいいですね。

授業で全く同じ物で練習して、そのままそのお店で、今度は学習者が1人で店員さんと話してカードを作ってくる！というタスクもおもしろいし、実用的だし、何より学習者の自信に繋がりますね！

「日本でポイントカードを1人で作れるようになった！」

という達成感を一つ手にすることが出来ます。

こうやって、身近な場面に「1人で」対応できるようになる、小さな場面を一つずつ増やすことに繋げる授業にして下さい。

言葉は「手段」、目的は「コミュニケーション」ですから。

「場面」とは、まさに「5W1H」のことです。

どこ：駅で

いつ：帰宅時

誰と：1人で

何を：切符を買っている

この場面で

「どうやって買うの？！」という出来事が起こる。

だから、よく言われる「導入」や、「場面設定」はとても大切です。

できるだけ場面をリアルにイメージできる写真や、もしくは言葉での誘導が有り、学習者のイメージをどんどん膨らませ、最後に感情が生まれるような出来事がある。

この場合だと

「ん？切符が出てこない！どうしよう！」

と焦る。

おろおろする。

出発時間まで時間がない。

「あの、すみません。切符が出てこないんですが・・・。」

となります。

こうやって、自然と感情がわくまでのリアルな場面設定によって、イメージの中でも、できるだけ本物に近い感情が沸く流れを作り、そこで「こう言いたい！でも、日本語でなんて言うの？！」という気持ちまで持ってきてから

「「あの、すみません。切符が出てこないんですが・・・。」

と教えると、バシッ！と入ります^^

（あ、もちろん私も未だに苦戦することも多いですが^^;）

場面で教えるとは、こういうことです。

是非、日常生活の様々な場面を、その中で起きる出来事を観察して、教科書を越える教材を頭の引き出しにたくさん作って下さいね！

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

自己紹介も、9項目目ですね。

少しずつ、自己紹介で表現できる情報が増えています。

それと同時に、相手に関しての情報が少しずつ尋ねられるようにもなっていると思います。

もちろん定着には繰り返し練習することが必要です。

しかしどの会話も、まずはきちんと楽しく理解してインプットすることから始まりますので、使える、自然な、好感の持てる自己紹介を楽しく教えましょう！

『1章-9』

電話番号をいう。

①N1はN2です。です。

今回も形は同じですね！

「N1はN2です」です。

そして、この項目も「数字」ですので、資料にあるように、電話番号を言うときの注意点「2：にい」「5:ごお」「-：の」になる部分などは注意して下さい。

日本に短期滞在の外国人の方は、携帯電話を持ってない方も多いです。その場合、最近は、主にメールアドレスやFacebookなどでのアドレス交換になるようですね。

公式の「N1」の部分がいろいろな情報に変わります。

「電話番号交換」

・電話番号は○○○です。

「メールアドレス交換」

・メールは○○○です。

「Facebook」

・FacebookのIDは○○○です。

「LINE」

・ラインのIDは○○○です。

「住所」

・住所は○○○です。

（意外に、自分の住所を日本語で言えない外国人の方、多いです！！）

いろんなパターンで練習しておけば、いざという時にスムーズに連絡先の交換ができますね！

出会った相手と、今後も継続的に関係を続けるスタートになる電話番号などの情報交換の場面に、自信を持って対応できる力が備わっているといいですね^^

自然な場面・会話を想像すると・・・

A：「携帯電話、ありますか。」（持っていますか）

B：「はい、あります」

A：「あ、そうですか。電話番号、教えてもらえますか。」

B：「はい。電話番号は○○○」

この一番最初の「A」の部分を

「Fecebookやっていますか」（されていますか）

「Lineやっていますか」（されていますか）

「住所はどこですか」（どちらですか）

にして、練習をします。

聞き取るだけなら、「Facebook」「Line」「住所」などの単語が分かれば答えることができると思います。

次に、自分が質問する場合、この場合は、上の文がきれいに言えるように練習します。

ここが言えて、やっと次に繋がる関係になれましたね！

ここまでくれば、あとは少しずつそのお友達に日本語を教えてもらったり、日本での生活をいろいろと手伝ってもらったりできると思います。

そして、ここまでの情報（「1-1」〜「 1-9」）は、どうしてもまだ日本語で言う自信がない！という方のために、「自己紹介カード」などを作成する、というアイデアもあります。

学習者の名前、国籍、職業、身分、電話番号、住所、メールアドレスなどが記載された名刺を作ります。（もしくは授業で名刺作成の活動をします）

それを常に持ち歩いておけば、自己紹介の時の手助けにもなります。

名刺の渡し方、受け取り方などのしぐさも一緒に教えることで、日本のビジネスマナーに触れるきっかけにもなりますしね！

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-10』

趣味を言う

①（私の）趣味は料理です。

②趣味は料理を作ることです。

公式は「私の趣味は Nです。/Nを [V辞]ことです。」

「N」：料理、スポーツ、映画、音楽、読書、プラモデル ...

「V」：する、作る、見る、聴く、読む ・・・

『1章-9』までは、名前や電話番号など、単に情報交換としての会話でしたが、趣味をいうことで、その人の内面に少し踏み込める会話であり、関係が生まれますね。

これまで同様「N1はN2です」の形にはめることができます。

「N1」の部分に「（私の）趣味」「N2」の部分に、「料理」「カラオケ」「読書」などが入ります。

これは①の文の説明ですね。

次に②ですが、「N2」に該当する部分が「作ること」となっています。

このように、趣味を言うときは「料理です」と、名詞一言で言えるときもあれば、

「歌を歌うこと」「花を育てること」など、動詞「歌う／育てる」などが入ることがあります。

ここで、今までお話してきた「公式」が登場します。

趣味を言うときの公式は「N1はN2です」ですね。

補足説明ですが、皆さん、「N1」とか「N2」って、何のことだか分かりますか？

実は「N」というのは、英語で「Noun」という「名詞」という意味を表す単語があります。この頭文字を取って「N」一文字で「名詞」という意味を表します。

「N1」「N2」など、「1」「2」という数字は、その公式の中で「N」が2回以上出てくる場合、数字を付けて、他の「N」とは違う、ということを意味します。

そして、②の趣味の説明に戻りますが、このように、本来「N」が入る場所に動詞を入れたいときは、公式に当てはめるために、動詞→名詞に変化させます。

では、どのように変化させるのかというと、動詞＋「こと」と、「こと」をつけると実は名詞になるんです！

面白いですよね！

そして、その場合、動詞の形は決まっていて、「辞書形」という形になります。

動詞というのはいろいろな形に変化します。

例えば「食べます」という動詞の変化を見てみると、

「食べる（辞書形）」「食べない（ない形）」「食べて（て形）」「「食べよう（意向形）」「食べたら（仮定形）」「食べられる（可能形」などなど、まだありますが、このように形が変化します。

そしてここの「趣味」を言うときは「動詞の辞書形」＋「こと」＝名詞になるという、ルールを使って、「N2」の部分に「食べること」「歌うこと」「作ること」を当てはめます。

そうすると、「趣味は歌うことです」と、①の文と同じように「N1はN2です」という公式にあてはめて、文が作れます！

日本語、面白いですよね！

ただ、昨日の『1章-9』までは名詞しか出てなかったのに、ここで初めて動詞が出ますので、「これは動詞の辞書形で・・・」と、形を説明して教えることにもし負担があるようでしたら、「N2の部分に、「歌うこと」「食べること」が入ります。」という形の説明抜きで、教える側が学習者が言いたい「動詞＋こと」の部分をそのまま教えるというのもあり！だと思います。

説明は必ずしも必要ではない、という時もあると思います。

もしくは、間接法だとその部分の説明は媒介語を使って入れられますよね。

直接法でしたら、もう少し学習者が動詞を理解し、動詞に慣れてきたところで、「動詞を辞書形にして「こと」を付けると名詞になります。」と後で説明をしてもいいと思います。

丸暗記でも使えることが優先！という場合もありますから^^

それと、趣味に関する会話は楽しく広がりますよね！

Step1

「趣味は何ですか。」

「趣味は旅行です。」

Step2

「そうですか。どこですか（どんな国に行きましたか）。」

「アメリカ、インドネシア、フランスです」

Step3

「アメリカはどうでしたか」

「楽しかったです」

と、難易度が高くなりますが、学習者に合わせてStep1だけ入れる。Step3まで入れるなど、コントロールしてもいいと思います。

「楽しかったです」なども、「楽しいです」というのは形容詞で、その過去形は、「楽しい」の「い」の部分を「かった」に変化させて「楽しかった」になります・・・」と、実は説明を入れるとすればこのように教えることになるのですが、これを読んで下さっている方の中には、日本語教師じゃない方もいらっしゃると思いますが「動詞」や「形容詞」という言葉にもピンッ！と来ない方には申し訳ないのですが、ここで説明を加えると長すぎてしまいますので、より深く知りたい方は「初級文法なるほど通信トレーニング」の方でご説明致します、すみません^^;。

上の動詞の時の説明のように、ここでは文法的な説明は入れず、「楽しかったです」を一単語として「丸暗記」で教えてもいいのでは、と思います。

「楽しかった」「美味しかった」「おもしろかった」「大変でした」など、4種類くらいに語彙を限定して練習するのも、全く感想が言えないよりはぐんと会話が広がりますよね！

あとは「暑かった」「寒かった」「涼しかった」「温かかった」なども言えるといいのですが、ちょっと負担が大きいでしょうか。。。

趣味を言う場面って、結構初対面に近い時が多いと思いませんか？！

相手のことをまだよく知らないときですね。

ぐっと心の距離が縮まる会話です。

お互いの趣味を知って、その趣味に興味を持ったら

A：「じゃあ、今度一緒に行きませんか！」

B：「是非行きましょう！いつがお暇ですか。」

A：「来週の週末はどうですか。」

B：「いいですね〜！何時くらいから・・・・。」

という風に、全ての会話は自己紹介から繋がり、広がって行きます。

恐らくこの会話から、誘って、誘われて、待ち合わせを決めて、もしかしたら後で変更をお願いしたり、友達も誘いたいと言ったり・・・。

この人間関係の入口でもある「自己紹介」を、できるだけ自分が言いたいことが言えて、聞けて、次へ繋げるコミュニケーションが取れたら、日本で出会った人の数だけ友達が、仲間が、協力者が増えるということに繋がると思います。

っという訳で、この「自己紹介でよく使われる14項目」を無料配信して、日本人と世界を繋ぐコミュニケーションの始まりが、できるだけ楽しく、幸せに繋がっていく私なりのサポートができたら・・・という思いでこの無料メルマガも書いています。

もちろん、ここから続く通信トレーニング本番の残りの約230項目分も同じような思いで書いています。

日本語が母国語として話せる皆さんは、日本語を学びたいと思っている外国人の皆さんに取ってはみんな「先生」です。

日本語教師じゃなくてもです。

日本人全てが、職業など関係なく「日本語を教える人。教えることができる人」になったら・・・といつも想像しています。

まずは私から。

そして、「まずは私から」という日本人が増えていきますように・・・。

* ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-11』

どこに住んでいるか言う/結婚しているかどうか言う。

①私は福岡に住んでいます。

②結婚しています。です。

公式は「N1はN2に住んでいます。」

　　　「 N1は結婚しています。」です。

「N1」：私、彼、彼女、○○さん ・・・

「N2」：[地名/場所]日本、福岡、天神 ・・・など。

「福岡に住んでいます」

「大阪に住んでいます」など、都道府県を言う場合もあれば、

「宮崎市」「浜松市」

などの市町村、そして

「南区」「中央区」

などの区など、自分が今どこで話しているかで場所として示す範囲が違いますよね。

自分が住んでいる土地のことをよく知らないだろうな、と思われる人に対しては

「私は福岡の南区に住んでいます。」

「私は南区の大橋というところに住んでいます。」

など、「○○の△△」もしくは「○○の△△というところ」という形で述べることが多いと思います。

この「の」というのは、「名詞と名詞を繋ぐ」という役目があります。

・私のかばん

・日本の車

・○○会社の社員

・イタリア製のネクタイ

など。

そして先ほどの会話の流れを見てみると、

（今、東京にいるとして）

「Aさんはどこに住んでいますか。」

「私は福岡に住んでいます。」（都道府県）

「福岡のどちらですか。」

「福岡の北九州市（というところ）です。」（市）

「北九州市のどちらですか。」

「小倉（というところ）です。」（町）

というふうに、どんどん細かい情報を質問しますよね。

「○○のどちらですか。」で、どんどん細かい情報が質問できるようにすると便利ですね。

あと

「何が有名ですか。」

「ラーメンが有名です。」

など、その土地の有名な物が一つでも言えると、言える方も自分の住んでいる地域のアピールができることも嬉しいし、聞く方も

「へ〜、そうですか。」と、知ることも楽しいですよね。

地図を見ながら場所を説明していく、質問していく、という練習も日本の地理が分かっていい練習になると思います。

もし地図を見ながらだと、「ここですね！」と、その場所を見つけたらいいますよね？！

ちなみに、「あ！ここでですね！」の「ここ」は、実は『3章-1』で出てきます。

「ね」は、『53章-3』にある、自分の情報が正しいか確認をしている終助詞です。

一つ一つの文法的な説明は入れずに、一つの表現として

「ここですね」という表現をそのまま覚えてもらうというのもいいと思います。

ただ、学習者が

「ここ」って何ですか？

「ね」って何ですか？

と聞かれたときにきちんと説明できるようになりたい、自分でも知っていたい、と思われる方は、もちろん事前に文法知識を頭に入れておかなければいけないですけどね^^

日常生活って、いつ、どこで、どんな場面に遭遇するか分からないですから。

「初級文法」は、「日常会話」で使われる日本語のルールのほとんどが入っていますので、マスターしていたいですね。

日本語を教える際、こちらがいくら「これは第2章で教えよう」「これは53章で教えよう」と言っても、学習者が知りたい！と思うタイミングは突然やってきますよね。

文法に難易度はつけられても、学習者が遭遇する場面に難易度はつけられません。

だからこそ、まずは教える私たちが文法全体を頭の引き出しに整理して入れておき、それを学習者の遭遇する場面やタイミングに合わせて導入できるように準備万端にしておくことが必要です。

世界中の日本語学習者の80%が「初級学習者＝日常会話レベル」ですから、この初級文法をまるごと頭に整理していれておくということは、世界中の80%の日本語学習者に、いつでもどこでも初級文法＝日常会話を教えられる！ということと同じです！

ワクワクしませんか？！

そして最後に

「住んでいます」

「結婚しています」

と言うのは、

「住みます」→「住んで」

「結婚します」→「結婚して」

と、動詞が「て形」という形になります。

それに「います」がついて、

「今、○○に住んでいるという状況・状態です。」

「今、結婚しているという状況・状態です。」という意味になります。

つまり

「〜ています」というのは、ある状況・状態が「続いている」と言いたい時に使います。

例えば、

「食べています」

今、「食べる」ことを継続している。

「住んでいます」

今、住んでいる状態が継続している。

など、「〜ています」というのは、「継続している」ということを言いたい時に使います。

それと、「て形」という動詞の形ですが、これも面白いんですよ！

日本語の動詞は、3つに分かれます。

ここで説明をするとと〜っても長くなってしまうので、少しだけ触れると、

グループ①

書きます→書いて

聞きます→聞いて

履きます→履いて

グループ②

話します→話して

返します→返して

例えば上の2種類の動詞の集まり、それぞれの共通点、分かりますか？！

上の「グループ①」の3つは、全て「ます」の前が「き」ですよね。

こうやって、「ます」の直前の文字で判断します。

つまり、「ます」の前が「き」だと、その「き」が「いて」に変化する、といった感じにです。

「グループ②」の2つは、「ます」の前が「し」です。その場合、「し」が「して」に変化する、といった感じです。

これはごくごく一部です。

私達、無意識にこんなルールを使いこなしているんですね！

こうやって、日本語を外国語として見てみると、ルールが浮き出て、自分たちが使っている日本語を外国語として見ることができ、論理的に知ることができます。

外国語としての日本語を見てみたい！知ってみたい！という方にもこのプログラムは「目からウロコ〜！！！」の楽しさが毎回ありますよ^^

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-12』

知っているかどうか聞く

①東京を知っていますか。

②福岡という町を知っていますか。

③彼が帰国するのを知っていますか。

公式は

1.『Ｎを知っていますか』

2.『Ｎ１というＮ２を知っていますか』

3.『Ｖ／Ａ／Ｎ普通形のを知っていますか』です。

（＊「N2」：「N1」が属するカテゴリーを表す名詞(人、町、ところ、国、動物、食べ物・・・)などが入る）

私たちは、人に「知っていますか」と聞くとき、こういう文型を使い分けているんですね！

ちなみにここで出てくるアルファベットの解説ですが、

V：Verb（動詞）

N：Noun（名詞）

A：Adjective（形容詞）

という意味です。

動詞は主に動作を表します。

（「全て」ではありません。「ある／いる」など、存在を表す動詞などもあります。）

名詞は主に具体的にも抽象的にも、物事の名前を表します。

形容詞は、物事を形容することば（大きい／暑い、など）と、人の気持ち・感情を表す物があります。（嬉しい／苦しい、など）

そして、今日の項目に戻りますが、

もし、日本人同士の会話だったら・・・。（Aさんは日本人）

①「私は湯布院に住んでいます。Aさんは、湯布院を知っていますか。」

もし、日本人と外国人の会話だったら・・・。（Aさんは外国人）

②「私は湯布院に住んでいます。Aさんは、湯布院という町を知っていますか。」

湯布院を知らなさそうな日本人に対しても②のパターンですよね？

そして、湯布院のことを知った後＝情報を共有した後は、更に詳しい情報を

③「来月、湯布院で温泉祭りがあるのを知っていますか」と続きませんか？

その物事を知っているかどうか聞き、その答えを「知っている」時は、

A：「湯布院という町を知っていますか。」

B：「はい知っています。テレビで見ました。」（10章-5）

A：「いいところですよね。」（53章-4）

B：「そうですね！」

というふうに、「ね」や「よね」で同意を求める会話に繋がりますよね。

「知らない」時は、

A：「湯布院という町を知っていますか。」

B：「いいえ知りません。どこですか。」

A：「大分県にあります。温泉が有名なところですよ。」（53章-4）

B：「そうですか。次の休みに行ってみますね。」（33章-6）

というふうに、「よ」で情報を提供して、情報をもらった相手は、そのことに対して「行ってみたいですね」や、「素敵な町ですね」など、何か感想を述べることが多いですよね。

そして、相手としても、何か感想が欲しいところですよね。

日本に来たばかりの外国人の方でしたら、「知らない」パターンが多いでしょうか。だったら、その情報に対して質問する疑問文（「いいえ知りません。どこですか。」など）や、教えてもらった情報に対して感想や意見を述べる文（「そうですか。次の休みに行ってみますね。」など）をいくつか想定して練習したら（食べ物・乗り物・場所・人など）、だいたいの「知っていますか」文に対して自信を持って答えられるようになりますし、そこから次の約束に繋がる可能性は大いにあると思います。

今度は逆に、日本人が外国人の国のことについて知る、という流れにしてもいいですね。

例えば上の文で考えると、

A：「ボルドーという町を知っていますか。」

B：「知っていますが、よく知りません。どんなところですか。」

A：「フランスの南にあります。ワインが有名なところですよ。」

B：「そうですか。いつか行ってみたいですね。」

上で（53章-4）や（33章-6）と示したように、学習者の未習文法であっても、教える側がその文法をきちんと把握して、どうのようにそこで説明・もしくは練習し、本来の会話に戻すという流れが自分で組むことができていれば、どんな文法をどんな順番で入れてもいいと、私は思っています。

新しくオープンしたお店の話題など、日々新しい情報が飛び交っています。

「知ってる？」って聞きたくなる場面は本当にたくさんあると思います。

学習者に「知っていて欲しいこと」を想像し、言葉の上だけでなく情報としても役立つ練習は、生きた会話に繋がりますね！

ではまた明日お会いしましょう！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-13』

身分、職業、仕事内容などを言う

①私ははぁとで日本語を習っています。です。

公式は

『Ｎ１はＮ２で［Ｖて］います』です。

「N1」：私、彼、彼女、○○さん ・・・

「N2」：会社(名)、学校(名)、組織(名) ・・・

「V」 ：働く、教える、勉強する、研究する、作る ・・・

『身分、職業を言う』って、確か『1章-1』でも出ましたよね？！

じゃあ、何が違うんでしょうか・・・。

形から見ると、今日の文型は「N2で」と、「場所」が入りますね。

そして「Vて　います」と、動詞で終わっていますね。

補足説明ですが、この「場所＋で」というのが、この自己紹介の中では初めてです。

なるほど参考書の「10章-2」で出ますが、「その場所（の中）で、何かをする」ということを表します。

・家でテレビを見る。

・学校で勉強をする。

・会社で電話をする。

・デパートで買い物をする。

・川でバーベキューをする。

などです。

「場所」＋「で」＋「行為」の関係で、「その場所（の中）で○○○をする」という構成になっています。

『1章-1』 ：「ご職業は何ですか。」

　　　　　 　「英会話教師です。」（職業名を述べている）

『1章-13』：「Aさんは、日本で何をしていますか。」

　　　 　　　「ABC英会話スクールで、英語の教師をしています。」

 　　　 （今、どこで、何をしている状況・状態かを述べている）

という違いがありますね。

『1章-1』は、仕事をしているということが前提で、その職業名を聞いています。そして、『1章-13』では、もっと全般的に「何をしているのか」を聞いていますね。

もし私が海外に行って自己紹介の場面で質問されるとしたら、きっと「お仕事は何ですか」ではなく、

A：「何をしていますか。」

私1：「ピザ屋でアルバイトをしています。」

私2：「日本語を教えるボランティアをしています。」

私3：「アルバイトをしながら資格を取る勉強をしています。」

など、勉強のことや仕事、アルバイトのことなど、仕事のことはもちろんですが、もっと幅広く答えると思います。

ということは、幅広い答えがあることが想定できる場面ではこちらを使うと言えるのかもしれませんね。

学習者が明らかに仕事をしているような立場の方でしたら、『1章-1』の直接的に職業名を聞き、仕事をしているかどうかが分からないような立場の方には、『1章-13』の文型で、もっと幅広く答えが出るような質問をすることができますね。

あと、この「〜ています」ですが、以前も出ましたが「継続」を表します。

短い時間での継続。

長期間での継続。などです。

動詞には様々な「形」があり、どの形がどう結びつくのかは公式の中のルールの一つとして決められています。

「継続」ですと、

動詞のて形＋います、という風にです。

ここ『1章-13』を教える時に、教える側が知っておかなければならない文法のポイントは

①「〜ています」が短期・長期の継続を表すこと。

②「〜て」という、動詞のて形が入る。そして、動詞のいうのは、全部で3つのグループがあり、そのグループ毎に「て形」を作るルールがそれぞれにある、ということ。

③「場所＋で」で、行為を行う場所を言うこと。などがあります。

いかがですか？ちょっと複雑ですか？！

でも、逆に言うと、これらの情報を頭に入れておけば、いつでも教えられる！ということですよね。

そして、この①②③のポイントは、この『1章』だけではなく、2章以降、つまり、日常生活の中でどのような場面にも関係してきます。

これをご覧になっていらっしゃる方の中には、日本語を外国語として学ぶのは全く初めての方もいらっしゃるかもしれません。

ですが、この無料メルマガ講座が始まる前、全く知識のなかった人が、今では動詞に様々な形があること、「〜ています」が、短期・長期の継続を表すこと。

そして、日本語には公式があること、など、少しずつ知識が積み重なっていませんか？

この「初級文法なるほど通信トレーニング」では、このように、さまざまな項目で、文法のポイントがしっかりと頭の中に積み重なっていくように、「この課で出たから、他の課では触れない」ということではなく、この10ヶ月のトレーニングの中で、何度も繰り返し同じような解説が出てきます。

ですので、最初は「え、こんなの複雑すぎて分からない！」と思っても、2度、3度繰り返し出てくるので、「あ、確か、前も出てきたな〜。」と、少しずつ頭にすり込まれていくように作られています。

今日までの13日間、いかがですか？

皆さんの頭の中に残っているもの、ありませんか？

・「は」は、「は」の前のことを、「は」の後ろで説明すると言うこと。

・N1はN2です。

・動詞には様々な形があること。

・動詞を名詞にして、「N2」に入れることが出来ること。

・数字＋助数詞は、助数詞によって数字の読み方が変わるので注意が必要なこと。

情報って、その時は「なるほどね〜。」と思っていても、時間が経つにつれて忘れてしまいますよね。。。

でも、何度も繰り返して覚えたことって、忘れにくいし、思い出しやすくないですか？

そして、頭の中で知識が繋がっていき、日本語の構造、「この文は、こういう背景や心理があるから「は」が来るんだ！」と、全てが論理的に繋がるのです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『1章-14』

習慣的な行為を 2 つ言う (~ながら)

①日本語学校で日本語を勉強しながら、コンビニでアルバイトをしています。

公式は『Ｖ1ながらＶ2ています』です。

V:動詞でした。

V1：動詞のます形

V2：動詞のて形　が入ります。

ます形→「食べます」など、「ます」をとる形から「ます」の部分を取ったものです。

例）

食べます→食べ＋ながら

行きます→行き＋ながら　というふうにです。

動詞のて形は、これまで何度も出ましたよね。

動詞が3つに分かれること。いくつかの形があること。

どうですか？皆さんの頭の中も徐々に「あ、また出てきた！」となっていませんか？

そして、少しずつ定着していっていませんか？

そうだと嬉しいですが^^

あと、実際の会話ですが、

A：「Bさんは、日本で何をしているんですか。」

B：「日本語学校で勉強しています。そして、夜はアルバイトをします。」

A：「アルバイトをしながら学校で勉強しているんですね。すごいですね！」

B：「とても忙しいです。」

日本で日本語学校に行っている外国人の方は、実際勉強とアルバイトを両立されている人が多いんですよ！

この「ながら」を使わなくても、上の「B」の発言のように「〜ます。そして、〜ます。」でも言うことができます。

ですので、この文型は、必ずしも言えなくては意味が通じないというものではありません。必要に応じて教えて下さい。

聞き取れるくらいはできてるといいですね！

それと、皆さん、「ながら」を挟んで前後が動詞ですが、この動詞、どちらが話し手の言いたいことか分かりますか？ま、優先順位というか、重要度というか。

そして、重要度が高い方が前に来ると思いますか？後ろに来ると思いますか？

「勉強しながらアルバイトをしています。」

「アルバイトをしながら勉強をしています。」

その人の状況にもよると思いますが、「言いたいことはどちら？」かと言えば、「後ろじゃないかと思いませんか？

「日本語は、言いたいことを後ろに持ってくる」という性質があります。

そして、ここまでの流れを大まかにおさらいすると

【自己紹介】

①名前や国籍、職業などを言う。

②身分を言う

③年齢を言う

④誕生日を言う

⑤電話番号を言う

⑥趣味を言う

⑦住んでいる場所を言う

でしたね。自己紹介に必要な情報を一通り習得していることと思います。いろいろな方に協力していただて、何度も自己紹介の練習の場面を作って練習できたらいいですね。

・学校

・アルバイト先

・お店で

・友達に紹介された

・目上の人・目下の人など

特に自己紹介は、日本語を話すことの緊張感に加えて、初対面の緊張感もありますから、なおさら十分に練習できているということは、本番での助けになりますよね！

今日の文型は、昨日の『1章-13』の「～で～ています」が基本で、2つの行為を同時に言う文型です。

基本は『1章-13』の文型ですので、その流れで必要に応じて教えて下さい。

そしてこの資料の使い方についてですが、『1章-1』～『1章-14』の中で、学習者が既に知ってる文型、そして、学習時間がどれくらいあるのかなど、学習者の必要性に応じてこの14項目の中から選んで教えることができます。

例えば1ヶ月しか日本に滞在しない方に対して、自己紹介だけを毎日練習して、他の場面を全く練習できなかった、というのももったいないですよね！

その場合、『1章1〜6』までを教えようとか、『1章1〜5』と、趣味は言えた方がいいので、『1章-10』をプラスするなど、学習者の状況に応じて選ぶことができます。

どれを選んでも、その文型・文法に必要なポイントと解説はいつでもピンポイントにそこだけ確認できる資料にしています。

ですので、実は日本語教師じゃない方にも「外国人の日常生活を、日常会話を手助けすることでサポートしたい！国際交流したい！」という方にも楽しんで実践として使っていただけます♪

そして最後に、

今日まで受講して下さった皆様、本当に有り難うございました。

これまでの自分の日本語教師としての経験から、文法知識と教える現場との接点が、現場で生かされる形に繋がってないのではないだろうかと思い、その問題を解決できる資料があればきっと世界中の日本語教師の方々のお役に立てる資料になるはず！！という思いのもと、このトレーニングプログラムが生まれました。

その接点さえしっかり繋がっていれば、日本語教師の授業準備ももっと効率的になり、それが授業の質へと繋がり、最終的に学習者の皆さんの日本語習得への負担の軽減や楽しさやモチベーションに繋がる部分に教師がもっと力を注ぐことができるのではないだろうかと考えました。

そして微力ながら、そこに何か自分で尽力できることはないかと考え、この形にたどり着きました。

今まで14項目、根気強くここまでお付き合いいただいたことに心から感謝申し上げます。本当に有り難うございました！

皆様1人1人が、日本語教師として自信と充実に満ちた日々をお過ごし下さいますように！

（この14項目と同じスタイルで、初級文法をほぼ完全網羅した「初級文法なるほど通信トレーニング」という消費眼ございます。興味がある方は、「https://www.heart-international.info/③初級文法なるほど通信トレーニング/」

をご覧いただけましたら幸いです。

では、これからも宜しくお願い致します！